

# 早生品種の出穂は

## 1日程度早まる見込み!

【生育調査ほの生育状況（6月20日現在）】（指標値比・差）

○早生品種は幼穂を確認し、適期に穂肥が施用できるように表1を参考に早めに準備しましょう。

○葉色が濃く、長草化しています。葉色の濃いコシヒカリでは、中干しを継続しましょう。

### こしいぶき（管内3か所平均）

草丈：47 cm（118% = 長い）

茎数：425 本/m<sup>2</sup>（99% = 並）

葉数：9.6 葉（+0.9 葉 = 早い）

葉色（SPAD 値）：44.2（+2.2 = 濃い）

### コシヒカリ（管内7か所平均）

草丈：44 cm（119% = 長い）

茎数：411 本/m<sup>2</sup>（109% = やや多）

葉数：9.0 葉（+0.8 葉 = 早い）

葉色（SPAD 値）：41.2（+1.8 = やや濃）

## 1 早生の中干し後の水管理

(1) 中干しは田面に小ヒビが入る程度で終了しましょう。

根域が縮小し、収量・品質が低下する恐れがあるため、出穂期1か月前までに中干しを終了しましょう。

(2) 中干し後は浅水の間断かん水を行い、徐々に飽水管理に移行しましょう。

飽水管理は、発根を促進し、根を健全に保ちます。

中干し後にたん水を続けると根腐れや下葉の枯れ上がりを招きます。

## 2 出穂期予想と穂肥時期のめやす

(1) 出穂期は、平年より1日程度早い予想です。

1か月予報（6/15 新潟地方気象台発表）によると、6月17日からの向こう1か月は気温が高い確率が60%と予想されており、出穂期が予想より早まる可能性もあるので、穂肥施用が遅れないように注意しましょう。

表1 幼穂形成期及び出穂期の予想と穂肥時期のめやす（長岡・平場地域）6月20日現在

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥時期のめやす（月/日）（ ）内は出穂前日数			
			1回目		2回目	
新潟次郎	6月23日	7月15日	6/20～6/22	(25～23)	7/ 1	(14)
ゆきん子舞	6月29日	7月22日	6/27～6/29	(25～23)	7/ 8	(14)
こしいぶき	6月 29日	7月22日	6/29	(23)	7/ 8	(14)
コシヒカリ	7月 10日	8月 2日	7/15～7/18	(18～15)	7/23	(10)
ゆきみらい	6月24日	7月17日	6/24	(23)	7/ 4	(13)
わたぼうし	6月27日	7月20日	6/28～6/30	(22～20)	7/ 8～7/ 10	(12～10)
こがねもち	7月 4日	7月27日	7/ 9～7/12	(18～15)	7/17	(10)
五百万石	6月25日	7月18日	6/28	(20)	7/ 6	(12)
たかね錦	6月29日	7月22日	7/ 2～7/ 4	(20～18)	7/ 8～7/12	(14～10)

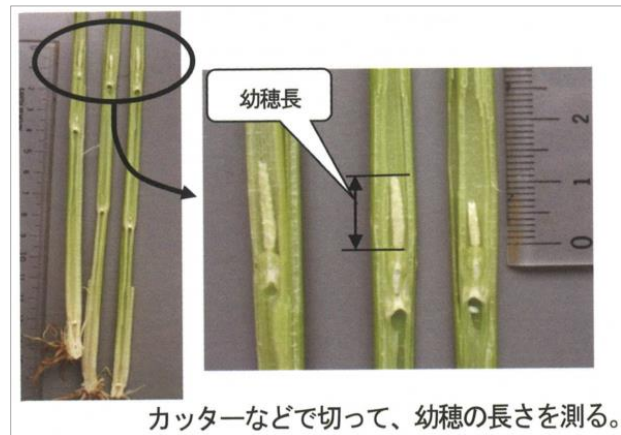
(注) コシヒカリの出穂期予想（経営普及課）を基にした予想値である。

早生品種は5月1～5日稚苗移植を、中生品種は5月10～15日稚苗移植を想定して予想した。

- (2) 幼穂形成期や出穂期はほ場間で差があり、今後の天候によっても前後します。  
各ほ場で幼穂確認を行って出穂期を予想し、穂肥の適期を判断しましょう。

#### ア 幼穂の長さの測り方

- ① 平均的な生育の稲を3株程度選ぶ。
- ② 1株の中で長い方から2～3本の茎を選び、株元から茎を引き抜き、図のように幼穂長を確認する。



#### イ 幼穂長から出穂前日数を予測する

出穂前日数	幼穂長 (cm)
23日	0.1
20日	0.2
18日	0.5～1.0
12日	4.0～6.0

## 4 早生品種の穂肥のポイント

### (1) 分施（基肥＋穂肥）の場合

幼穂形成期(幼穂長 0.1 cmの時期)を確認し、各品種の適期に施用しましょう。

表2 穂肥施用量のめやす（合計施用量を2回に分けて施用する）

品種名	合計施用量 (N kg/10a)	留意点
ゆきん子舞	6	1回目3～4kg/10a、2回目2～3kg/10a がめやす。
こしいぶき	2	砂壤土など地力の低いほ場では、1 kg/10a程度多めに施用する。
ゆきみらい	5	1回目3 kg/10a、2回目2 kg/10aがめやす。
わたぼうし	2～3	極端な過肥にならないように注意する。
こがねもち	1～3	生育過剰の場合は遅めの1回施用とし、1～1.5kg/10a以内にとどめる。
五百万石	1～2	1回目に重点を置く。

- 必ず、たん水してから施用する。大豆あと等では生育に応じて減肥する。
- 特に、ゆきん子舞やゆきみらいでは、1回目の穂肥を幼穂形成期に、遅れることなく施用することが多収のポイントです。

### (2) 全量基肥肥料の場合

出穂期の葉色の低下が予想される場合は、追加で穂肥を施用しましょう。

## 5 病虫害対策

### (1) 斑点米カメムシ類

農道・畦畔の雑草は、種子がつかない間隔で草刈りをしましょう。

必要に応じて後期除草剤を使用し、水田内の除草も徹底しましょう。

(水田内の雑草もカメムシの発生源になるため、斑点米の原因となります。)

### (2) いもち病

いもち病多発生地やいもち病に弱い品種、多肥栽培のほ場では、特に早期発見に努め病斑を見つけ次第防除しましょう。

**暑い時期になります。農作業中の熱中症に注意しましょう。農作業事故に注意しましょう。**